

第163回 葉隠フォーラムのご案内

I 日時 平成25年10月7日(月)午後4時30分 (会費 500円)

II 場所 〒102-0032 中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル
TEL 03-3551-9335 株式会社アヅマ 3階会議室(1階右側のエレベーターより3階。左側エレベーター4階より3階へ。)

III 今回のテーマ「武雄の神籠石の話」

IV 前回のご報告と今回への取り組み

今回は、「弁財嶽争論と黒田藩の担当者(貝原益軒)」と題してお話しをしました。

葉隠の中には、有名な脊振山弁財嶽公事のことが出てきます。これは、今の福岡・佐賀の境について、分水嶺を境として分けるか、境はもっと南か、といった争いで、元禄6年(1693年)にまとまるまで約6年間にわたり、佐賀藩と黒田藩とが幕府の評定所で争った紛争です。結局佐賀藩の勝訴となり、脊振山の頂は佐賀のもの、と認められましたが、当時の佐賀藩主である鍋島光茂は「御参勤の大阪御逗留内、弁財嶽境公事御利運の段申来り候節、『同役と云ひ、隣國の事なるに、笑止(気の毒)の事』と述べ、「くろをさへゆづりし御代もあるものを山をあらそふことのおろかさ」という歌を詠んでいます(葉隠・聞書5)。「同役」とは、長崎御番を隔年に行っている隣国同士であることを言います。

ところで、この弁財嶽公事の黒田側の担当者に有名な貝原益軒がいます。貝原家は元々黒田家と同じく岡山県から福岡にやってきた家柄のようですが、さして有力な武士というわけではありませんでした。

貝原益軒(それまでは損軒など色々)は、最初、黒田騒動で有名な黒田忠之に仕えましたが、忠之の勘気をこうむり、21歳から7年間ほど浪人の身を過ごしました。しかし、この間勉強怠りなく、忠之が亡くなって、次の光之になってから出仕を許され、江戸や、特に京都等で林家の人々、山崎闇斎、木下順庵、中村惕斎、後に伊藤仁斎など多くの儒学者と交わりました。

私は彼の「生き方」に最も興味を引かれるとともに尊敬しています。彼は20代の頃から本を書いているようですが、むしろ本格的に書物を書きだしたのは70歳を過ぎてからで、遂に84歳のとき、「大疑録」を書き、その年亡くなりました。

大疑録は「大きく疑う書」ですが、およそ学問においては全て疑うことが大切なことだと思っています。勿論あらゆる粗探しをするような趣旨のものではなく、葉隠の言う「これも非なり非なりと思ふ」精神で学問を極めることを言うことだと思えます。益軒は「大きく疑えば大きく進む」と言っており、葉隠のいう「非知り」=聖の典型だったのかもしれませんが。

では、そのような彼は、儒学の中でどのように位置づけられるのでしょうか。上記のとおり朱子学者ですが、大疑録に見られるとおり、朱子学の枠を外れない中での徹底的な疑いを持っていました。京都では山崎闇斎らとも会い、彼と関わり深い渋川春海や吉川惟足とも会って、主君光之は保科正之とも親戚ですが、ストリクトな闇斎系とは合わなかったようで、どちらかというところ(折衷学派)。逆に言えば通俗的ともいえるかもしれません。そんな中、「文武訓」など武士の生き方についても書いています。

私としては、彼らの論争の中心である理気二元論や一元論についてはよく分かりません。これをもっと追究しようとするならば数学にならざるを得ず、最近出版された川原秀城教授の「朝鮮の数学史(朱子学的な展開とその終焉)」のような次々と数式が出てくるような話しにならなければならず、一方、「氣」がどうしたのこうしたのなどと通俗的平面で論じているようでは、西洋の哲学に負けてしまうのではないかとも思っ

ているのです。

そういうわけで、抽象論よりも、益軒の実践的な本にこそ引かれます。その中で是非取り上げたいのは「筑前国続風土記」です。益軒は一旦出来上がった本書の改訂のため、それこそ80歳になるまで黒田藩の支配地域をくまなく巡って古文書や古老の物語などをとりまとめ、この本をまとめました。活字本でも20センチとは言わないくらいの厚さのある大きな本で、その中にも当然脊振山のことが出てきます。それによりますと、脊振山からは、遠く朝鮮半島まで望めるとのこと。私の登山時には見えたことがありませんが、秀吉の名護屋城からは対馬が見えましたが多分本当でしょう。彼は、裁判の敗訴原因についても色々反省の弁を述べており、これも面白いものです。「大和本草」、「養生訓」などで有名な益軒ですが、朱子学者らしい実証的な態度をもって、現在でも十分通用する（どころか最も詳しい）こんな本を書いたことに、その学問への姿勢と相まって、正に尊敬の念を覚えるものです。

さて、今回は武雄をはじめとする神籠石の話を取り上げてみたいと思います。参加の方は嘉村までご連絡ください。嘉村 孝 平成25年9月13日(Tel 03-3261-5860 FAX03-3264-8456 kamura@eurus.dti.ne.jp) ■ 武士道バーチャル博物館 <http://hagakurebushido.jp/> ■ 東方からの見聞録 <http://kamura-lu.jp/>

このようなものもありますので、ご興味おありの方は是非ご参加下さい！！

若楠会郷土訪問 平成25年11月1日(金)～11月2日(土) 1泊2日

(3日目の11月3日に嘉村主催のツアーを行います)

さて、恒例の佐賀県人会・若楠会主催の郷土訪問ですが、今年はメインとして『武雄市』を訪問します。武雄市は「佐賀のがばいばあちゃん」のロケ地として全国的に知られるようになり、また「武雄図書館」が民間との提携によって話題を呼んでいます。

2日目は朝一番で『佐賀の尾瀬』とも呼ばれる旧七山村の「檜原湿原」に向かいます。景勝地にて写真撮影を。午後の唐津見学では、歴史コースとして、万葉の時代以来の様々な故地を見学します。唐津城に登って、唐津焼の最も古い作品をはじめとする数々の展示物に接し、その後は、遙かな鏡山や大島などを眺めて、大陸へ思いを馳せる企てとか。昼食は、万葉集の故地である旧浜玉町を予定しています。大伴旅人の鮎釣る乙女の歌で有名な玉島川、朝鮮燵で有名な恵日寺を見学。足を伸ばして藤原広嗣や源氏物語に関わる鏡神社も訪問。しかし、あまりにも盛り沢山ですから、途中で切り上げることも予想されますが、夕方は、『唐津くんち』の宵山の初日にあたりますので、その雰囲気味わいたいと思います。その他『おくんち料理』など盛り沢山。申込みにつきましては、下記までお願い致します。

[日程] 11/01(金) 佐賀空港(09:15集合) ⇒⇒ 佐賀駅(09:40集合)

= 武雄市役所(訪問) = 昼食(武雄市内を予定) = 武雄図書館(視察) = 窯元見学
= 唐津市内にてご夕食(懇親会) 【宿泊】唐津第一ホテルを予定

11/02(土) ホテル=檜原湿原=唐津見学(唐津城・鏡山・恵日寺など)
= 唐津駅にて解散(17時頃を予定) *希望者は唐津くんち宵山見学

旅行代金：1泊2日基本プラン お一人様 ￥24,800円

☆代金に含まれるもの：2日間貸切バス（祐徳バス利用）・夕食（懇親会）1回・
昼食2回。主催保険等

☆代金に含まれないもの：往復航空運賃・宿泊料金・食事の時の飲み物代（現地にて
集金いたします）・観光施設入場料（各自払い）など

■宿泊希望者は別途お申込み下さい。『唐津第一ホテル』のシングル利用です。
@61,000円（朝食つき）

■航空機ご希望の方は別途お申込みください。11/1 羽田⇒佐賀/福岡@18,500円
佐賀/福岡⇒羽田@17,000円（特別運賃にて）

※ご参加者が15名様を下回った場合は旅行代金の変動します。

<申込み先>西鉄旅行株式会社東京支店 担当：持丸氏

FAX：03-6742-0328 TEL：03-6742-0324

※尚、申込締切日は09/30（月）とさせていただきます。